

講義コード	515106302	
講義名	教育の制度と社会 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	山本 詩織	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

授業の概要

本授業では、教育制度・教育行政に関する基本的事項を学ぶことを通じて、保育・幼児教育に携わる専門職として、社会における保育・幼児教育さらには学校教育全体の意義やそれを支えるシステムがいかなる性質のものであるかを理解し、広い視野を持って自身の実践を見通すことができるようになることを目的とします。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物を活用します。

②授業形態

授業は講義形式ではありますが、学生諸君のグループワークを積極的に取り入れ、研究成果発表なども行ないます。

③アクティブラーニングの有無

本科目では、授業終了時にコメントシートによって授業内容についての振り返りを行ないます。

④課題に対するフィードバックの方法

コメントシートに対して、次回の授業時に教員からのコメント、解説を行ないます。

授業の到達目標及びテーマ

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に①②を重視します。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている」を達成するための科目です。

授業計画表

回	項目

第1回	オリエンテーションー教育制度を学ぶとは
第2回	教育制度の法体系と原理
第3回	教員行政
第4回	中央政府
第5回	地方教育政治
第6回	地方教育行政
第7回	政府間関係
第8回	教育財政
第9回	教育委員会と学校
第10回	初等中等教育行政と教育
第11回	高等教育・私立学校行政と学校
第12回	特別支援教育と学校・学校外教育
第13回	学校安全
第14回	就学前教育行政と幼稚園・保育所・認定こども園①
第15回	就学前教育行政と幼稚園・保育所・認定こども園②

授業時間外の学修

予習として、配布資料の事前読了を求めます。各回の予習には60分かかると想定されます。また、復習として、配布資料および板書事項の見直しをしてください。各回の復習には120分かかると想定されます。

実務経験の有無

--

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	○	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解して、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
具体性	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を自らのかかわる問題として豊かにイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿をイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を概ねイメージできているが、現実との乖離も見られる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まり、具体的な行為や姿をイメージすることが出来ないためレポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている

考察力	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し説得力のある形で結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけるようとするが、説得力に欠ける	調べた結果のみを提示するに留まり、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
文章構成力	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができおり、レポートの文章構成が優れていると認められる	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができていると認められる	高等教育を受ける者としてやや相応しい文章表現ができていると認められる	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができおらずレポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	0%	
小テスト等	0%	
成果発表	0%	
授業への貢献度	10%	
レポート	90%	
その他	0%	

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する	授業の中で解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） コメントシートの活用		授業前レポート（予習） 授業後レポート

調べ学習・調査の活用

教科書

青木栄一編著『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房、2019年。

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等科目のナンバリング
SOB2402**研究室（訪問先等）**

中央研究棟2階 228研究室

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mailyamamoto@sakushin-u.ac.jp**成績評価法**

中間レポート、期末レポート、発表内容等で評価を行ないます。

- ①試験 0%
- ②レポート 90% 中間レポート（20%）を2回と期末レポート（50%）の内容で評価します。
- ③平常点 10% 発表の内容および受講態度（30%）を評価します。
- ④その他 0%